

福岡県立八女高等学校

表現活動を充実し、高い志をもった生徒を育成する

福岡県立八女高等学校は本年度に創立110周年を迎えた伝統校です。心と身体の両面にわたる全人的な教育を通じ、リーダーとなる人材の育成を目指しています。学校全体で推進されている、思考力・判断力・表現力等を高める授業改善を中心とした取組を紹介します。

1 授業改善の目指す方向性

学校教育目標

「質実剛健」の校訓を踏まえ、志を高く掲げ 社会に貢献する有為な人間を育成する

上記の学校教育目標のもと、目指す生徒像を「豊かな心とたくましく生きる力を備えた生徒」と定めています。その実現のために、アクティブ・ラーニング型授業の研究及び実践を行い、基礎・基本の定着、意欲的に学ぶ態度の涵養を図っています。特に、学んだことを発信していく力の育成を重視し、表現力を高めるための授業改善が積極的になされています。

2 具体的な取組

(1) ICT機器の積極的活用

平成27年度に、県の研究指定を受けたことをきっかけにICT機器が整備され、積極的に活用されるようになりました。電子黒板や書画カメラを用いて教師が講義を効率よく行うことによって、発表や議論の時間を確保するとともに、生徒が機器を用いてプレゼンテーション等を行うなど、授業が活性化しています。生徒が各教科や「総合的な学習の時間」で学んだ内容を、ICT機器を効果的に活用して表現することが、「主体的・対話的で深い学び」につながっています。

また、校内のキャリア教育部に設置されている情報管理課が校内研修を毎年行い、機器の活用方法、機能について周知を図っています。さらに、各授業担当者が作成したスライドデータやプリント教材が各教科の共有フォルダに保存され、自由に閲覧、活用できるようになっている等、学校全体でICT機器を用いた実践を広げていくための工夫が行われています。

<授業実践 2学年 コミュニケーション英語Ⅱ>

最初に授業者の石橋教諭から、この時間のゴールと授業の内容が示された後、“1 minute Talk”を行います。生徒は示されたテーマについて1分以内で自分の意見を発表します。知っている単語や表現を使いながら一生懸命英語で話す姿が見られました。発表後は3段階で相互評価を行います。

次はサマリー（要約）です。授業プリントを参考にしながら、前時の学習内容についての要約文の空欄に、適切な語句や表現を書き込んでいきます。書き込んだ内容を周囲の生徒と共有し、修正します。

発音をデジタル教科書で確認して練習し、本文の意味を調べ、最後はディスカッションを行いました。学習内容に関連するテーマが与えられ、単語や表現を辞書で調べながら自分の意見を英語でまとめます。この日は「宇宙開発は重要か、人間にとっての利点は何か。」「あなたは宇宙に行きたいか、行ったらどんなことをやりたいか。」のどちらかのテーマについて意見を述べるという活動でした。生徒はメモを見ながら自分の意見を2分でパートナーに伝えます。「表現が難しければ日本語を使ってもいいよ」と先生から指示がありましたが、ほぼ全員が粘り強く英語で自分の意見を述べてい



ペアによるディスカッションの様子
(コミュニケーション英語Ⅱ)

ました。1時間の授業の中で、考えたことをアウトプットする場面が何度も設定されていました。

(2) 観点別評価の工夫

全教科において、観点別評価を効果的に取り入れています。各教科で、年間を通した評価規準や評価方法を定め、年度初めにシラバスと各教科のオリエンテーションで生徒に示しています。また、生徒の表現力の向上を適切に評価するため、各教科・科目でルーブリックを作成、共有しています。

<ルーブリックの例>

「現代文B」

評価の観点	項目	A(十分満足できる)	B(おおむね満足できる)	C(努力を要する)
話す・聞く能力	ペア学習・班活動	根拠を明確にするなど、論理的に意見を述べ、相手の考えを尊重して聞くとする態度が特に優れている。	根拠を明確にするなど、論理的に意見を述べ、相手の考えを尊重して聞くとしている。	自分の意見を述べていない、または、相手の意見を聞いていないことが多い。
	発表(話す)	顔を上げて聴衆のほうを見ながら、適切な声量、抑揚、間で特に聞き取りやすく発表している。	顔を上げて聴衆のほうを見ながら、適切な声量、抑揚、間で聞き取りやすく発表している。	メモを見ながら発表しており、聞き取りにくい時がある。
	発表(聞く)	発表者を見ながら相手の考えを正確に聞き取り、必要に応じてメモを取ることができる。	メモを取りながら相手の考えを聞き取ることができる。	相手の考えを聞き取ることが不十分である。

「英語表現I」

評価の観点	項目	A(十分満足できる)	B(おおむね満足できる)	C(努力を要する)
関心・意欲・態度	提出物A(週末課題)	課題になっている箇所だけでなく、わからない点や疑問に思った点についても、辞書や参考書を参照し、積極的に取り組んでいる。	課題になっている箇所については、辞書や参考書を参照し、多少空欄などはあるものの、積極的に課題に取り組んでいる。	課題の内容で分かる箇所は取り組んでいるが、分からない箇所は取り組み方が分からないので何もしていない。
	実技テスト(Speaking)	間違いを恐れずに、うまく言えないことがあっても、知っている表現などを用いて、自分が学んだことを積極的に活用して相手に伝えようとしている。	間違いを恐れずに、うまく言えないことがあっても、知っている表現などを使って自分の意見や情報を相手に伝えようとしている。	間違いを恐れすぎて、なかなか自分の言いたいことを言えずに黙ってしまったり、こちらの発問にも下を向いたまま小声で答える。
	授業時のペア・グループ活動	与えられた課題に対して、決められた時間の間ずっと、互いに協力しながら会話や練習を続けている。(日本語または英語で)	与えられた課題に対して、互いに協力しながら会話や練習を続けるが、課題が終わるとぼんやりしている。	与えられた課題に対して、取り組みが消極的で時間内に課題を終わらせることができない。

3 取組の成果

(1) 生徒の主体性の向上

観点別評価の導入によって、学習の目標が明確となり、生徒の意欲が確実に向上しました。自分の長所を授業で生かす、苦手な分野に対し見通しを持って学習に取り組むなど、主体的な学習態度が随所でみられるようになりました。また、自分の意見を表現するだけでなく、他の生徒の意見や考えを聞く機会が増えたことで考えの幅が広がり、キャリア形成等にも良い影響を与えています。

(2) 協働による授業改善

「表現力の向上」という指導目標が明確になったことで、教師発信型の授業からの転換が積極的に図られるようになりました。また、生徒に身に付けさせたい資質・能力や指導すべき内容を個人で検証したり、教科内で話し合ったりする場面が増えました。アクティブ・ラーニングの手法や教材が共有化されることで、教科横断的な取組も増えてきました。物理の授業を英語で行ったり、保健の授業で使用したビデオ教材を英語で取り入れたりするなど、新しい指導方法にチャレンジする機運が高まっています。



英語による物理の授業

4 今後の課題

(1) 観点別評価の充実

観点別評価の効果的な取組により、以前より生徒の学習の成果を詳細に把握できるようになりました。各教科で評価の観点や項目、ルーブリックの基準の整理を行うなど、さらに改善を図り、これまで以上に学習を適切に評価し、授業改善につなげていきます。

(2) カリキュラム・マネジメントの推進

教科横断的な授業の試みを今後さらに拡大していくこと、学校独自の取組である「立志講座」(1年生次)、「養志講座」(2年生次)の内容を充実させていくことなど、多面的な取組で生徒の学力を高めていきます。